

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

勝池レポート                    アジア資産運用アドバイザー   勝池和夫

「着陸の形ではなく飛行高度が大事」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

米国経済の先行きに暗雲が立ち込めています。今まではソフトランディング（軟着陸）の見方が大勢でしたが、最近の冴えない経済指標を受けてハードランディング（景気の急激な失速）の懸念も広がっています。

ただ、大切なことは経済の着陸の形ではなく、飛行高度だと思います。つまり、米国の経済が中長期的に何処まで成長できるのかということです。私は、頑張っても2%成長程度の低空飛行がせいぜいだと予想しています。

ピケティが言うように、今後世界経済が3~4%成長するなどということは幻想に近いようです。そのような、これから予想される人類史上初めての世界経済の下降局面で、かつての日本や中国のように10%の成長を長期に続けることなど、更に不可能と考えるのが普通です。

ところが、それができる可能性を残している国が一つだけあります。そうです、インドです。

インド機（経済）の機体は新しく（若く）、強力なエンジン（内需、AI等）を備えています。更に飛行高度が高まれば、乱気流（世界経済の失速など）に巻き込まれシートベルトが必要になることは余りないでしょう。近年は飛行場も驚くほど整備されています。それが証拠に、6月の予想に反したインドの総選挙結果や、8月の世界株式市場の乱気流を受けても、機体（株式市場）は他国に比べて非常に安定していましたね。

これからのインド機は雲を抜け、2047年の独立100周年という目的地に向かい更に高度を上げ、そして安定した飛行を続けると見えています。